2011年度

国語

（問題）

〈H23050018〉

注意事項

1 問題冊子は、試験開始の指示があるまで開かないこと。

2 問題は2～7ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。

3 解答用紙の受験番号をよく確認すること。

4 解答はすべて解答用紙の所定欄にHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。また、解答用紙のその他の部分には何も書かないこと。

5 氏名は、試験が開始してから、解答用紙の所定欄に正確にていねいに記入すること。

6 マーク欄は、はっきり記入すること。また、訂正する場合は、消しゴムでていねいに、消し残しがないようによく消すこと（砂消しゴムは使用しないこと）。

マークする時	●良い	◎悪い	◐悪い	
マークを消す時	○良い	◎悪い	◐悪い	

7 いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

8 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

（一）次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。（なお、設問の都合上、文章を改変した部分がある。）

かつて私は、専門化のより進んだ他の学問分野との関係で、人類学はメタ・サイエンスというべき性格をもっているが、a 人類学の特徴はマイナーなものへの執着にあり、したがって学問としての位置づけにおいてもマイナー・サイエンスであらざるを得ず、人類学者はそのことに歓びをもつべきだと述べた。

いうまでもなく、いま私たちがマイナーとかメジャーと呼んでいる性格づけは、イ「近代化」された社会とその思考様式、目的指向の価値観とそれに合った定量的思考がもたらした A だ。メジャー、マイナーという評価は、欧米主導の近代化以来、情報、経済、安全保障などの面で、現代のグローバル化へ向かって進んできた世界での、中心と周①エンというとらえ方とも結び合わされているだろう。

私にとって、人類学のこころざしの一つは、近代とされているものの総体を、根底から、つまり語義どおりラディカルに、ロ相対化することにある。「グローバル」に対して「ローカル」、「メジャー」に対して「マイナー」であるのは力関係によるものであって、「グローバル」の価値が B であることを意味しない。だが、なぜ「近代」はヨーロッパに形成され、他の地域ではなかったのか。元来ローカルなものとして形成された「ヨーロッパ近代」が、なぜ他のローカルなものに対して強力になり、「グローバル化」へ進んだのかが、同時に問われなければならない。

そのような前提に立って、b 現在私たちが生きている社会で通用しているという意味で、マイナーということばを用いることにする。

マイナーなものとは、何か。それは、外見や量の上でも取るに足りないものであり、人間社会全体の運用にとって、重要度、緊急度ともに低いと見られるもののことだ。マイナーなものに心を惹かれ、こだわり、探求する、好事家の心根は、研究方法においても定量分析を拒み、定性分析を志向する。

人類学の先駆者とされるブロニスラフ・マリノフスキーが何年も住み込み調査をしたメラネシアのトロブリアンド諸島は、世界の大多数の人々にとって関心外で、世界の政治・経済においても何の重要性ももたない。だがその土地に生活する一握りの人たちについて、マリノフスキーが行なった密度の高い定性分析が、交換、呪術、性生活など、人類の営みの深層についての認識に強い影響を及ぼしたことはよく知られている。

人間社会にとってマイナーな、つまり量の面で少しも重要でないものを研究対象に選ぶ人類学者は、定量分析には初めから背を向けているといっていい。

化学において初次的な意味をもつ定性分析は、人間の社会を対象とする科学の、特にハ実践に関わる領域においては、一般に定量分析におけるほどの重要性をもちえない。百分率など、全体に占める割合によってある事象の重要度を測り、必要なら多数決で社会にとっての意味を判断するのは、社会科学の研究結果にもとづく社会の意思決定の基本原則だ。欧米をはじめとする、近代社会の発展、経済開発とされるものは、このような定量思考にもとづいて達成されたのであり、その達成には、社会科学の定量分析が貢献してきた。世の役に立つ定量分析の手法に、c 逆らって定性分析を志向する心根は、社会の必要に沿った実践を重んじる立場からは、世をすねた、あるいは有産・有②カンの意識が生む不善とみなされても仕方のない面があるだろう。

私自身、熱帯アフリカの、国連などの統計にもとづく評価では常に後発・後進国扱いされる小国の、電気も水道もないサバンナのただなかで、文字を用いず、太鼓の音で王の代々の先祖への讃辞を叩き、それをおそらく何百年も伝えて来た人たち、現代世界でまぎれもなくマイナーな人々の生活と意識に心を惹かれ、こだわり、社会の必要に沿った実践を重んじる定量思考からは無意味と断定されるに違いない探求に③セン心して来た。

そこで気付かせられたのは、定性思考、反・定量思考は、人類学者自身の性癖であるだけでなく、人類学者の執着の対象となる人たちにも共有されているということだ。d 人類学者とその研究対象の人たちは波長が合うのであろうし、だからこうした社会はいつまでたっても「低開発」なのだと、メジャーの先進「主要国」からは咎められるかも知れないのだ。

私が長年つきあってきた西アフリカ内陸のサバンナの社会で、「先進国」からの来訪者が、初めて訪れる村の長に、この村の人口は何人かと訊ねたとしても、たいてい答えは得られないだろう。村の人口でなく、大家族の家長に家族の人数を聞いても同じだ。だが、その村には誰と誰の家がある、その家族には誰と誰が暮らしているという、個々の人間

を挙げることはできるし、それがどんな人か、年取った小男か若い美女か、酒飲みか働き者か、ひょうきんか怒りっぽいかなど、人間の頭数という「量」[2]でなく、一人一人の「質」ならば、必ず詳しく知っている。

考えてみると、各人それぞれに個性のある老若男女を、ひとしなみに何人と「量」で数える、ある意味での [C] は、アフリカの場合、フランスやイギリスなど、いち早く「近代化」を遂げて、世界のメジャーとなった国々が、大部分は十九世紀末に軍隊によって侵略し、二十世紀初めにかけて植民地行政を徹底させ、人頭税の徴収や強制労働、兵役への人員徴集のために、家ごと村ごとに住民の登録台帳を作り、課税対象や徴集可能な人数を明らかにしようとしたことに始まっている。そんな必要でもなければ、なぜ、顔かたちも性格も一人一人違う人間を、いくつかのカテゴリーに分けて「量」で数えなければならないというのか。

近代ないしは近代化を支えてきた、このような定量的思考と不可分に結び合わされた価値意識として、私は「目的指向」[3]を、「過程尊重」の価値意識と対比させて挙げたい。「目的指向」の価値意識とは、行為の目的をまず設定し、その目的を達成するための最善の手段を工夫するものである。これに私が対比させてみたい価値意識である「過程尊重」は、行為が、設定されたある目的を達成するための単なる手段ではなく、行為自体が、人間が生きる一つの「過程」として価値をもっており、それ故尊重されなければならないと考える価値意識である。過程尊重は、関連する人々が価値観を共有し、戦においても、例えば源平合戦のように敵味方が同じ価値観や美意識をもち、結果より [e] あっぱれな態度を重んじるという前提があって成り立つものである。[D] は、過程尊重の精髄といえるだろう。「目的指向」と「過程尊重」という価値指向性の対概念を、私は、結果の説明原理としてではなく、「発見に資する」[1]分析概念として想定したいのである。

メタ・サイエンスとは何か。いうまでもなく、「メタ」は、後に続く、超える、包含するなどの意味をもつ、ギリシャ語に由来する接頭辞だ。欧米でも日本でも、歴史が古くはない人類学の第一世代、時に第二世代の学者も、他の研究領域の専門家として自己形成を遂げ、その後に人類学という文字通りのメタ・サイエンスを、それぞれ個性豊かに創り出した。前述のマリノフスキーは物理学と数学で博士号を取ったのだし、アメリカ人類学の父といわれるフランツ・ボアズは物理学と地理学、クロード・レヴィ＝ストロースは法学と哲学、石田英一郎は経済学と民族学の「後に」[4]、人類学の視野を拓いている。

細分化され専門化の進んだ現代の学問状況で、人類の来た道、行く末を広い視野で考察する研究領域が必要であるとして、それならどのような視角と方法によって、人類学はその要求に応えられるだろうか。私は、人類学者個人としての「私」[5]が、その慣れ親しんだ文化から著しく距たった文化のなかでの、長期の住み込み調査、感性がノック・ダウンされ、価値観も分解されてしまうような生活を通じて観察し体得する、ことば、ふるまい、感覚、等々からなる体験知と、人類についての極大のパラダイム知とが結び合わされるところに、人類学的認識の独自性があるのではないかと思う。

（川田順造『人類学的認識論のために』による）

問一 空欄 [a] ～ [e] のそれぞれに入る語句として最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで、解答欄にマークせよ。ただし、同じものを二度以上用いてはならない。

1 あえて　2 しばらく　3 それでいて　4 だからこそ　5 むしろ

問二 傍線部1～5のうち、傍線部イと同じ意図でかぎかっこを用いていると考えられるものを選んで、解答欄にマークせよ。該当するものが二つ以上ある場合は、そのすべてにマークすること。

問三 空欄 [A] ～ [D] のそれぞれに入る語句として最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで、解答欄にマークせよ。

A　1 客観的な真実　2 根源的な誤謬　3 主観的な幻想　4 地域性の相違　5 力関係の産物

B　1 進歩的　2 先天的　3 普遍的　4 文明的　5 優越的

C　1 規範化　2 具体化　3 総合化　4 不合理　5 不統一

D　1 生け花　2 囲碁　3 雅楽　4 茶道　5 書道

問四　傍線部①～③のカタカナを漢字に改めるとき、同じ漢字をカタカナ部分に用いるものは、次の**1**～**6**の中のどれか。それぞれ一つ選んで解答欄にマークせよ。

①　**1**　会社のエン革　　**2**　エン故を頼る　　**3**　エン大な計画
　　4　エン満な解決　　**5**　エン命措置　　**6**　救エンを求める

②　**1**　遺カンの意　　**2**　カン化を受ける　　**3**　カン急自在
　　4　衆人カン視　　**5**　カン静な住宅地　　**6**　カン途につく

③　**1**　環境汚セン　　**2**　仕事を周センする　　**3**　セン細な神経
　　4　セン在能力　　**5**　社長のセン断　　**6**　平安セン都

問五　傍線部**ロ**「相対化する」とはどのようなことか、その内容として最も適切なものを、次の**1**～**5**の中から一つ選んで、解答欄にマークせよ。

1　対立関係にあるものとしてとらえること。
2　個々の要素の間に共通性を見いだすこと。
3　根本的にそのものの価値を否定すること。
4　先行研究のすべてを視野に納めること。
5　異なる価値観によって見直すこと。

問六　傍線部**ハ**「実践に関わる領域」の対象に該当しないものとして最も適切なものを、次の**1**～**5**の中から一つ選んで、解答欄にマークせよ。

1　医療制度
2　家族制度
3　軍事制度
4　工業技術
5　農業技術

問七　傍線部**ニ**「発見に資する」の内容として最も適切なものを、次の**1**～**5**の中から一つ選んで、解答欄にマークせよ。

1　新たな発見のための手がかりとして役立てること。
2　これまでの発見を説明するための原理とすること。
3　新たな発見の成果を広く共有しようとすること。
4　これまでの発見を分類、整理すること。
5　これまでの発見を有効に活用すること。

問八　本文の内容に合致するものを次の**1**～**6**の中から三つ選んで解答欄にマークせよ。

1　人類学がメタ・サイエンスであるのは、人類学の研究基盤として前もって他の学問領域を学んでおく必要があるためである。
2　目的指向の価値意識は、ものごとを結果の達成度によって判断するという点で、定量的思考と共通するところがある。
3　人類学者に長期の住み込み調査が重要なのは、人類学研究のための広い視野と新たな価値観を体得するためである。
4　人類学者が定性分析を優先するのは、人類学に定量分析が有効性を発揮しうるような研究対象がないためである。
5　定量分析という方法は、質を量に置き換えて把握しようとする、近代の諸制度のあり方を背景にしている。
6　ヨーロッパ近代には、もともと、地域的な限定を超越した一般性があった。

（二）次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。（なお、設問の都合上、文章を改変した部分がある。）

「古事記伝」は「古事記」の注釈ではある。しかし「古事記」という個別的言語によって、個別の周辺にひろがる波紋に、常に説き及ぼうとする。宣長には宣長として主張したい「理」があり、それを「古事記」の「辞」によって説く。それらは、宣長がその「理」を「理」として総括して説いたものよりも、しばしばより力強いようにさえ思われる。たとえば「古事記伝」巻七のはじめ、黄泉の国から帰りました伊邪那岐大神が竺紫の日向の橘の小門の阿波岐原における、禊祓によって、さまざまの神神が生まれ、さいごに左の御目、右の御目、鼻、を洗いまして、天照大御神、月読命、建速須佐之男命という三貴子を得たのに、それぞれ高天原、夜、海原を委任したと、「古事記」そのものは記す事態と、その表現となった言葉の一一に、周到な訓釈を与えおわったあと、宣長は端をあらため、その人間観を詳細に披瀝する。すなわち、

人は人事を以て神代を議るを、我は神代を以て人事を知れり、ロいでそのおもむきを委曲に説むには、

ではじまる長い条であって、人の世には、善があるとともに必ず悪が、幸福があると共に必ず不幸があること、つまり吉善があると共に必ず凶悪があること、そうして凶悪は吉善から生まれ、逆にまた吉善も凶悪から生まれつつ、互にうつりもてゆくのだが、しかし凶悪は終に吉善に勝たず、また人は必ず凶悪をきらって吉善を行うという説を、附注をもふくめて、二千五百字あまり展開し、

奇しきかも、霊しきかも、妙なるかも、妙なるかも、

と、その文章をむすんだうえ、その下に添えたさいごの附注で、

凡そ世間古今万事、此の理りにもるることなし、

と、事がらの［A］を強調する。なぜ宣長は、この重大な議論を、ここで発するのか。その議論に、人人が私をもふくめて賛成するか否かは別問題として、彼としては重要な議論を、他の総論の書よりも具体的に、ここの注釈として発するのか。それは神代の巻のこの条という個別的な言語が、個別的であるゆえに具体的であり、一般的な道理を個別であるゆえにこそ、もっともよく語っていると、考えたからである。「我は神代を以て人事を知れり」というのは、この［B］を示す。そうして「人は人事を以て神代を議るを」というのは、他の学者が空泛な原理を考え、それによって個別を説こうとするのに反撥しているのである。そうして彼は、［C］ことを、神話の一一の部分をあげて検証する。すなわち、

されば此の次第の趣を熟く味ひて、世間のあるかたち、何事も、吉善より凶悪を生し、

という理論への、神話による検証を、附注として次のごとくいう、

二柱の神、諸神を生たまへる吉善によりて、女神の神避坐す凶悪は出来れり、何事もみなかくの如く、凶悪は吉善よりおこるものぞ、

逆にまた、

凶悪より吉善を生しつつ、互にうつりもてゆく理りをさとるべく、

それに対する附注の検証は、

伊邪那岐の命、黄泉の穢に触れたまへる凶悪によりてこそ、御禊して日月の神は成り出で坐せれ、何事もみなかくの如く、吉善は凶悪よりおこるものなり、

もう一つだけ例をあげよう。巻二十七、日代宮二之巻、西方を平定した英雄倭建命が、都にかえると、父のみかどからこんどは東方の征伐にゆけと、命ぜられる。父はおれに死ねというのか、英雄は出征の途次、伊勢にいる倭比売命に、そのことをうったえる。

天皇既所以思吾死乎、何撃遣西方之悪人等而、返参上来之間、未経幾時、不賜軍衆、今更平遣東方十二道之悪人等、因此思惟、猶所思看吾既死焉、患泣罷時、

と、「古事記」は記し、宣長はそれを、

スメラミコトハヤクアレヲシネトヤオモホスラム、イカナレカニシノカタノマツロハヌヒトドモヲトリニツカハシテ、カヘリマキリノボリコシホド、イクダモアラネバ、イクサビトドモヲモタマハズテ、イマサラニヒムカシノカタノトヲマリフタミチノマツロハヌヒトドモヲコトムケニハツカハスラム、コレニヨリテオモヘバ、ナホアレハヤクシネトオモホシメスナリケリトマヲシテ、ウレヒナキテマカリマストキニ、

と訓ずるところで、宣長は議論を発していう、

さばかり武勇く坐す皇子の、此如申し給へる御心のほどを思ひ度り奉るに、いといと悲哀しとも、ホ悲哀き御語にざりける。然れども、大御父天皇の大命に違ひ賜ふ事なく、誤り賜ふ事なく、いささかも勇気の撓み給ふこと無くして、成功竟へ給へるは、又いといと有難く貴からずや、

また注を附していう、

此の後しも、いささかも勇気は撓み給はず、成功をへて、大御父天皇の大命を、違へ給はぬばかりの勇き正しき御心ながらも、如此恨み奉るべき事をば、恨み、悲むべき事をば、悲み泣き賜ふ、是ぞ人の真心にはありける、

そうして、更に注をつづけ、

此若し漢人ならば、かばかりの人は、心の **D** には甚く恨み悲みながらも、其はつつみ隠して、其の色を見せず、かかる時も、ただ例の言痛きこと武勇きことをのみ云てぞあらまし、此れを以て戎人のうはべをかざり偽ると、皇国の古人の真心なるとを、万の事にも思ひわたしてさとるべし、

議論は、「万の事」にまでのびるのであるが、これと似て、「うはべをかざる偽」をしりぞけた条は、「玉勝間」にも、例の有名な巻四の「うはべをつくる世のならひ」をはじめ、いろいろとある。ことに戎人のそれを論じた条としては、巻八の丙吉、周公旦、巻九の成湯、周の武王、巻十一の王商、巻十二の孫康、車胤、そうしてさいごに巻十四では孔子が、それぞれに叱責されている。しかしそれと反対の事例を、倭建命の「いといと悲哀しとも悲哀き御語」、もっとも印象鮮烈な個別の言語にみとめて発したこの条の議論は、「万の事にも思ひわたし」得べきものとして、より力づよく、宣長としても読者の熟読を希望するものであると思われる。

（吉川幸次郎『本居宣長』による）

問九 傍線部イ「人間観」とあるが、ここではどのような考え方を意味するのか。最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで解答欄にマークせよ。

1 人間は「理」に支配されているが、「辞」という個別的言語によってのみ真価を発揮することが出来るということ。
2 人間はそれぞれの人間観に則って、神々のしろしめした時代の事象を理解しようとするということ。
3 神々の時代の事象をありのままに捉えて、その世の人間を理解しようとするということ。
4 善悪は交互に生起するが、究極的には善が悪に克服されることはないと考えているということ。
5 神代の尺度でみる人間の姿と、他の学者が人間界の基準で見る人間の姿とは、究極的に同じであること。

問十 傍線部ロ「いでそのおもむきを委曲に説むには」の意味として最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで解答欄にマークせよ。

1 さあ、それは実際どのようなことであるのかを詳細に説明してみようとすると、
2 なんとかしてその趣向を事実を曲げてでも分ってもらおうとするには、
3 さて、その意味は読者はすでにくわしく理解されていることだがあえて説明すれば、
4 なぜそうしたことが起るのか原因を探求して話してみようとすると、
5 どんなにその意義をくわしく細かに説明してみたところで、

問十一 空欄 **A** には四字の漢字が入る。次の1～5の中からここに入るのに最も適切なものを一つ選んで解答欄にマークせよ。

1 抽象具体　2 理路整然　3 普遍妥当　4 論理整合　5 霊妙不尽

問十二 空欄 **B** に入る語として最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで解答欄にマークせよ。

1 語感　2 神代　3 人事　4 個別　5 確信

問十三 空欄 **C** に入れるべき一文として最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで解答欄にマークせよ。

1 他の学者が空泛な原理を考えている
2 かように総括的言語にこそもっとも具体的思考が集約される
3 神代にこそ具体的な人事が集約的に現れる
4 「古事記」の中でこそ個別と総括との止揚が果たされている
5 かく個別にこそ原理のもっともよき投影がある

問十四 傍線部ハ「神避坐す」の意味として最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで解答欄にマークせよ。

1 神を畏敬して暮らす。　2 亡くなる。　3 避けて近寄らない。
4 神々がそばで守護している。　5 この世に降り立って座る。

問十五 傍線部ニ「ハヤク」とあるが、この宣長の訓に対応する、直前に引用されている『古事記』原文の漢字として最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで、解答欄にマークせよ。

1 患泣罷時　2 而　3 因此　4 既　5 未経幾時

問十六 傍線部ホ「悲哀き御語にざりける」とあるが、この語の解釈として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選んで、解答欄にマークせよ。

1 悲しいお話とは似ても似つかなかった。
2 悲しい話をされて去って行かれた。
3 実に悲しいお話であったことだ。
4 決して悲しいお話ではなかった。

問十七 空欄 D に入れるのに、最も適切な漢字を、次の1～5の中から一つ選んで、解答欄にマークせよ。

1 外　2 綾　3 裏　4 表　5 理

問十八 傍線部ヘ「孫康、車胤」とあるが、これらの人物が登場する次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。（設問の都合で返り点、送り仮名を省略した箇所がある。）

孫氏世録ニ曰ハク、康家貧シテ無シ油。常ニ映 X 読ム書ヲ。少小シテ清介、交遊不レ雑ナラ。後ニ至ルニ御史大夫ニ。晋、車胤、字ハ武子。南平ノ人。恭勤シテ不レ倦マ。博覧多通。家貧シテ不ニ常ニハ得レ油ヲ。夏月ハ則チ練嚢ニ盛ニ数 Y 、Z 以照書以夜継日焉。

（『蒙求』による）

問a 空欄 X と Y とに入れるのに最も適切な文字の組み合わせ（上から X、Y の順とする）を、次の1～5の中から一つ選んで、解答欄にマークせよ。

1 火と油　2 油と火　3 蛍火と雪　4 雪と蛍火　5 月と星

問b 傍線部Z「以照書以夜継日焉」を書き下し文に直した場合に最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで、解答欄にマークせよ。

1 照を以て書し、以て夜は継ぎて日を焉える。
2 以て書を照らし、夜は日を継ぐを以てす。
3 以て書を照らし、夜を以て日に継ぐ。
4 書を照らすを以て、夜は日を継ぐを以てす。
5 書を照らして以て、夜を以て継ぎて焉れを日にす。

問十九 傍線部ト「読者の熟読を希望する」とあるが、この理由として最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで解答欄にマークせよ。

1 中国では、個々の事象によって全体の原理を説明しようとすることが、万事に該当するから。
2 死に臨んでのみ、虚飾と偽善とが放棄されるという事例が、あらゆる国々の人に共通するから。
3 日本では、人は死に臨んでも理屈っぽい議論に終始し、人前で自己の強さを誇るような偽善をうち捨てることは極めて稀であるから。
4 伊邪那岐命が黄泉の穢れによって得た不幸がめぐりめぐって、倭建命の悲しい最期に繋がることが分かるから。
5 倭建命が、天皇の命令には従ったが悲しみを訴えたことには、古代日本人の真心が示されているから。

〔以　下　余　白〕